

こうちエコチル調査

# 「子育て講演会」ご報告

2月11日、小雨にも関わらず**140名**の方にご参加いただき、こうちエコチル調査子育て講演会が開催されました。

テーマは「**子どもの成長と発達障害について。育てづらさを感じる子どもを育む**」



会場は高知大学医学部の講義室。当日は本会場とは別に子どもさんを連れて入って頂けるモニター会場も設けさせて頂きました。



## ◀ 講師の先生方

左から

- 高知大学医学部神経精神科学講座  
特任准教授 **高橋 秀俊 先生**
- JA高知病院小児科医長  
**本浄 護士 先生**
- 香美市立あけぼの保育園 園長  
**国沢 マキ 先生**

3人の講師の先生が、それぞれの立場から、「ちょっと気になる子ども」のことを、分かりやすく解説してくださいました。



高橋先生は研究者の立場から、先生のご専門である、自閉症スペクトラムの人が多く持っている感覚過敏について、実際の支援の例などもあげていただきながら、分かりやすくお話して下さいました。



自閉症スペクトラムの人は、音だけでなく触覚についても敏感な場合もある。いろいろな刺激で疲れて、休養が必要なこともあるし、休養が必要でも働きすぎてしまうこともあり、そういう傾向への配慮も必要ですね。



本淨先生は、小児科医師として多くのお子さんと親御さんと関わってこられたご経験から、親やまわりの大人が子どもと接する際に気をつけたいポイントについてお話しいただきました。

またESSENCEという12個の質問項目だけで、育てづらいと感じるお子さんが持っているかもしれない困難さを、幼い時期に知っておくことができる質問票と考え方についてもご説明いただきました。

子どもを叱るときのポイントは  
**CCQ (Close 近くに寄って、  
Calm 冷静に、Quiet 静かに)。**  
そして、具体的にどうしたらいいかを伝えましょう。

国沢先生からは、保育士として、保育園園長として、実践の場からの貴重なお話しと親御さんや保育士さん、子どもに関わる全ての人への温かいメッセージをいただきました。

(親や周囲にとって)「困った子」は、(その子自身が)「困っている子」。子どもが何に困っているか、その困っている声に耳を傾けて一緒に考えていくことが大切です。



最後に、事前に集めた質問に、それぞれの先生方がお答えくださいました。

「人はそれぞれ個性があり、”普通”とひとくくりに言っても、実は大半の人がそうである、という程度のこと。「発達障害」という言葉の有無に関わらず、子ども一人一人に向き合い、困っている声に耳を傾け、できることに注目しそれを伸ばしていく。」

という共通のメッセージを、それぞれ立場の違う先生方から伺うことができた、貴重な1時間半でした。

## みなさまからたくさんのご感想をいただきました！

感覚過敏については知らない人が多く、まわりの人への働きかけや不応行動への理解など課題がたくさんあります。子どもの本質を見ていけるようにしていきたい。

3人の先生のそれぞれの立場、視点からのお話が聞けて、子どもを理解する入り口になりました。



家族が末永く幸せに暮らしていくためには、という長い目で見ていくことが大切だと思いました。

焦らずその子の良さを伸ばす子育てが大切だと思いました。少し肩の力が抜けた気がします。



「見る参加」、まさにうちの子。これも立派な参加、というお話が嬉しかったです。ベテランの園長先生のご経験のお話、感動し胸がいっぱいになりました。



エコチル調査・愛知ユニットセンターの6名の研究者・スタッフのみなさまも駆けつけてくださいました！司会はラジオでご活躍の渡辺さおりさん！お馴染みの落ち着いたお声で会の進行を助けていただきました。



今、4歳から7歳半のお子さまとその保護者の方がエコチル調査に参加して下さっています。エコチルキッズの成長を、スタッフ一同、見守っていきたい、と改めて感じた講演会となりました。

今回伺ったお話は、個人的にもとても参考になるお話でした。雨の中、朝早くからお越し下さった出席者の方々も、なにか「ほっこり」するものを感じて会場をあとに下さっていると嬉しいです。